

第1776回 例会

2010 - 11年度RI会長:レイ・クンギンス
 第2640地区ガバナー:米田眞理子
 創立:昭和49年5月15日
 会長:西谷次彦
 幹事:坂本正人
 会報委員長:岡本 博



VOL.37 No.26

2011年 2月2日(水)
 事務所:田辺市下屋敷町81 - 10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会:毎週水曜日 12:30 ~

司会者 西谷 次彦 会長

唱歌

”奉仕の理想” 片井 貢 君

**ゲスト**

RI第2640地区 国際奉仕委員 汐崎 まこと 様(新宮RC)

メイクアップ

1月23日(日) RLI研修受講 平野 好史 君
 1月25日(火) 上海RC 坂本 正人 君、本田 耕二 君、稗田 智則 君

出席報告

会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
52名	2名	11名	78%
1月19日 修正出席率 80%			

ここにこ箱

(敬称略)

謝礼を寄付いたします 汐崎まこと様

汐崎まこと様をお迎えして

佐田、武田、藍畑、玉置、片井、吉田、小倉
 榎本、小山、畑地、楠本、岡本、安井、愛須
 平野、谷本、上原、山本、竹村

汐崎さん、ご苦労様です 西谷

積雪、凍結により白浜空港の従業員が遅刻の為

飛行機の空港到着が1時間も遅れました 北村

上海帰りの本田です 本田

上海RCに出席してきました。また、報告します

稗田

お花頂きます 谷中

本人誕生日 谷峯

奥様誕生日 西谷、北村

結婚記念日 森本

会長報告

本日のお客様は地区国際奉仕委員会より汐崎まこと様をお迎えしています。後ほどご講演、よろしくお願いたします。

1月30日(日)日置川プロバスクラブ創立9周年記念大会へ出席して参りました。

出席者は谷峯ガバナー補佐、隠岐 和彦君、会長の西谷の3人です。

幹事報告

例会日時変更

那智勝浦RC

2月3日(木) 5日(土)1組IM会場

2月17日(木) 20日(日)8:00 ~ “南の国の雪まつり”会場(ポリオ・プラス募金活動のため)

高野山RC 2月11日(金) 休会

回覧

・週報「新宮RC」

・RI事務局より「国際ロータリーとロータリー財団の2009-10年度年次報告書」

・「ロータリーの友」地区だより

・ガバナーホームページより月信2月号

・インターアクトクラブ委員会より「海外研修報告会のご案内」

連絡

・先週、2月16日は移動例会とすることを会長からの理事會報告で申し上げました。

詳細は後日に...と会場変更のみをお知らせしました。

あらためて移動例会を連絡します。

2月16日(水)

場所:ビッグ・ユー(新庄町)

時間:12時 ~ 例会(食事)

12時半 ~ プログラム「パソコン教室」

食事はお弁当(味三昧様)とお茶(紙パック)を用意いたします。

なお当日はバスの手配を考えています。

闘鶏神社に11時15分集合、11時半出発でいかがでしょうか? まだ日にちがありますので会員さんのご意見をお聞きして決めたいと考えています。

・ロータリーの友2月号が届いています。各自トレーに入れておきます。

・今年も東京RC会員のクマヒラ様より「抜萃のつゞりその七十」を頂いています。各自トレーに入れてあります。

・IMホストの田辺はまゆうRCさんより連絡です。
2月5日IMです。メイン会議あとの懇親会では名刺交換となっています、
普段からおもちいただけているかと存じますが、お忘れのないようご用意お願いいたします。

プログラム

RI第2640地区 国際奉仕委員 汐崎まこと 様

平素は当地区委員会に格別のご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。
とりとめのない話になるかも知れませんが、寛容と友情の精神にてお許し下さい。



さて、世界社会奉仕(WCS)とはどういう活動なのか？簡単にいいますと2ヶ国以上のRCが地域の社会奉仕活動に力を合わせるときにそのプロジェクトは生まれます。

その生い立ちは1962年アジアから最初のRI会長ニッティシ・ラハリー氏(インド)によって提唱され当初は、教育、公衆衛生、農業、工業などの専門知識と経験を有するロータリアンのチームが発展途上国にむかい、そこで専門技能を共有するというものでした。又おもに文盲対策やスラム街対策等が実施されておりました。

当初は 技術供与やマンパワーの提供のみでなかなか効果の上がない活動でありましたが1966年にRIは決議29-12を撤廃して金銭的援助を可能にしました。

決議29-12

如何なる加盟クラブもまず、国際ロータリー理事会の承認を受けるまでは他のロータリークラブ、或いは個々のロータリアンに財政的援助を求められない。 ダラス大会

1966年RI理事会

金銭が含まれているか否かを問わず、地区やクラブから特定の世界社会活動に関して協力や援助を要請する場合、ひとつ又は限られた数の地区やクラブを対象とし全クラブを対象としないならば、財政援助懇請にかされた制限条項に制約されない。

このような経緯のもと1967年より財政的援助を加えた現在のWCS活動となり様々なプロジェクトが実現出来るようになりました。

WCS活動をもう一度解りやすく言えば、ある国のRCが地域社会のニーズに答えて実践している飢餓、保健、水問題、教育問題などの社会奉仕活動を他国のRCや地区が、人道的見地から財政面やマンパワーの援助をすることです。

そして支援された人々は勿論のこと、援助したロー

タリアンにも恩恵をもたらします。
どのような恩恵でしょうか？

海外のロータリアンと強い絆を結ぶことができます。
国際理解を推進します。
国際親善を築き上げます。

海外にてWCS活動している貴クラブの皆様においては、すでにこのような恩恵を実感としてうけておられることと思います。

さて、今年度の当委員会では世界の恵まれない人々の基本的なニーズである、水、飢餓、保健、教育問題を強調事項として掲げております。

幸なことに、日本においてはそのすべてがある程度満たされており例えば、それを地域の社会奉仕におきかえると

安全な水・紀ノ川や大和川の清掃活動など
保健問題・エイズの啓発運動、献血活動など
教育問題・青少年の非行防止など

飢餓問題・全く問題なく、それよりも食べ残し、いわゆる残飯などを含んだ大量のごみ処理問題が深刻

世界に目を向けると、発展途上国または最貧国と云われる様な国々では、慢性的な水不足や不衛生な水の為、病気になったり亡くなる人々がたくさんいます。

また飢餓で亡くなる人、治るはずの病気が怪我が病院に行ったり薬を買うことが出来ずに亡くなる人たち。

いわゆる人間が生きていくうえで、必要最低限のことが満たされていない地域、国々がまだまだたくさんあります。

教育や識字の問題については学校にいけない子供たちがたくさんいます。理由は家庭が貧しく働かなくては生活できない、学校に通うのに片道2時間もかかる、女の子の場合教育は必要ないとか、させてはいけないという地域もあります。また、武力抗争のため文字を覚えるより先に銃やナイフの使い方を教えられる子供たちもいます。

国際労働機関(ILO)の調べでは、世界中で働いている子供(5~17歳)は約2億5千万人いるそうで、世界の子供の6人に1人の割合らしいです。そのうちの1億7千万人は危険な仕事、160万人は売春や児童ポルノ、30万人は兵士をさせられているらしいです。

生きていく為の、非情なる仕事の選択です。

アメリカの議会が以前バングラデシュの洋服工場から製品を買わないように決めたことがありました。

その工場は、低賃金で多くの子供たちを働かせていたらしいのが理由なのです。

圧力が功を奏して約5万人の子供たちが、その工場から開放されました。

ところが、その子供たちはその後もっと賃金がやすくて、ひどい労働条件の仕事場へ行ってしまいました。理由は簡単に働かなくては生きて行けないからです。

働いている子供たちは、必ずしも仕事を辞めたい訳でなく、問題は労働に見合う賃金がきちんと払われないことです。皆さんの使う日常品のなかには、貧しい国々からの輸入品が多々あると思いますが、そのなかには、このような子供たちの携わった物がいくつかは含まれていると現実があり、すこし複雑な気持ちにならないでしょうか？

もちろん子供が働くことは、決して悪いことだとは私は思いません。家の仕事を手伝ったり水を汲みに行ったり、芝を刈ったりとか・・・そういう行為は自分で責任を持つことを学ぶ良い機会になります。諸先輩方も経験があると思います、私も小さいころ家庭が貧しくて新聞配達や、牛乳配達をした経験があります。そしてその姿をやさしく見守る大人たちがいていい社会勉強だったと思っています。

でも、その労働が、勉強したり、遊んだり、友達をつくったりすることを邪魔するようであれば、誰かが手を差し伸べるべきだとは思いませんでしょうか？

飢餓の問題では、今もおおくの人々が飢えに苦しんでおり、そのせいで亡くなる人が毎年約2千万人を超えるらしいです。毎年5歳未満の子供たちが約1千万人死亡しているが、その半数以上は栄養失調が原因らしいです。だけど、地球全体で食料が足りない訳では無く、毎年、全人類が十分に食べていけるだけの食料が生産されています。

食糧不足のひとつの原因には、その国の政治、経済力、また武力抗争などが大きく関わってきます。戦争になれば政府はまず食糧よりも武器を買います。もちろん危険なので、食糧の輸送もできず、農業もできません。やがて食糧不足となりその国の経済発展をも大きく妨げます。なぜなら、お腹を減らした状態では仕事の能率など上がる訳もなく満足に働けないからです。したがって当然のごとく経済が停滞します。

アフリカのある国で、農業に従事する人の摂取カロリーを平均で50%多くしてみたいらしいです。つまりは食べる量を増やした訳ですが、そうすると農作物の収穫が16%もあがったという事例があるそうです。腹が減っては戦はできぬ まさにこのことです。

それでは、どうすれば飢えに苦しむ人々を救うことができるのでしょうか？

なかなか難しい問題であり、対象となる国や地域の事情もそれぞれ異なります。

ひとつの例として、豊かな先進国は余った食糧などをこのような国々に援助しております。これは急を要する際には大変重要な支援ですが、長い目でみると根本的な解決策にはなりません。

以前国連から飢餓対策としてアフガニスタンに大量の小麦が送られました。

ただそのせいで、国内の小麦の価格が暴落し、それを生業とする農民たちは生活に困り仕方がないのでもっとお金になるアヘンなどを栽培しはじめました。

これでは食糧不足は将来さらに深刻となり恒久的に他国の支援が必要となるでしょう。それに栽培された麻薬などは、密売され逆に支援した国々に被害をもたらします。

このようにただ単にものを贈るという行為は、その瞬間において感謝されますが弊害が伴う場合もあるということです。

一番大事なことは、彼らが自立できるよう支援することだと思います。

当地区の成川PDGが以前「魚をほしがる人に、魚を与えるのは簡単なこと、しかし我々ロータリアンは、まず魚の取り方を教えることが大事だ」というお話をされたのを記憶しております。

たしかに技術供与やマンパワーでの支援には、労力や時間そして手間もかかります。

しかし我々ロータリアンは単にお金を送ったり、物資を与えたりとかいう形の支援だけでなく、その国々の人達の未来を考えて、より効果的な支援活動に臨めれば・・・と考えたく思います。

理想的で効果的なWCSプロジェクトとは恩恵を受ける人たちをそのプロジェクトの計画、実施に直接参加させることによって自活自助の道をつけさせると共に、事業の継続性を図ることでないでしょうか。

現在2640地区内におきましては、各クラブが様々なWCS活動を行っており、地区委員会といたしましても、RIの強調事項に沿って水問題、飢餓、保健、教育問題などに焦点をあわせ特に重要項目としてお願いをしております。

そしてそのような活動にたいして、上限で各クラブ会員一人当たりにつき6000円という形の補助金を地区ファンドとしてお出ししております。

受領資格については、ロータリー財団のMGプログラムの判定基準に準じた形をとらせていただいております。ただし、MGの場合は5000ドル以上のプロジェクトとなっておりますが地区ファンドにおいては、クラブ主導型ということを推奨しており、会員数の少ないクラブでも積極的にWCS活動に取り組んで戴ける様に、プロジェクトの総額についての取り決めは定めておりません。ちいさなプロジェクトでは総額5万円くらいのももあり、各クラブの予算に無理なく出来るような活動もたくさんあります。

WCSの目的のひとつは、その活動を通じて各クラブ、会員の国際理解と平和親善を推進することを目標としております。

世界的な同時不況のなか、日々聞かされるニュースは暗いものばかりです。

貧困、飢餓、武力抗争、水問題などはとくに深刻さを増してきております。

時として思います。我々ひとりの力で何が出来るんだろう？

しかし、我々ロータリアンにはこんな唄があります。



LET THERE BE PEACE ON EARTH, AND LET BEGIN WITH ME この地に平和があるように、それが私から始まるように。

この唄が意味するように、それが皆様から、そして貴クラブから率先してお願いできれば・・・と思います。

ロータリーが、そしてクラブがその存在の意義を保つには、人々に安全な水をもたらすこと、飢餓と戦い、識字教育を広める活動が続けなければならない。

もちろんポリオの問題もあります。

すべては、日本においてある程度満たされているならば、これらは国際奉仕の分野だというふうに、そしてWCS活動であるとの認識を頂けたらと考えております。

結びに、私のつたない話に最後までお付き合い、ご清聴いただいたことに感謝いたします。

有り難うございました。



ハイチの人々にきれいな水を

記事：Ryan Hyland

国際ロータリー・ニュース：2011年1月28日



ハイチの村に設置された井戸を確認するロータリアン、ロイ・シェルドリックさん（左）と、第7090地区（カナダ一部および米国ニューヨーク州）パスト・ガバナーのラルフ・モンテサントさん。シェルドリックさんは、非営利組織「Water For Life（命の水）」の創設者です。写真提供：Roy Sheldrick

ロイ・シェルドリックさんと妻のノーマさんが創設した非営利組織、「Water For Life（命の水）」は、アンカスター・ロータリー・クラブ（カナダ、オンタリオ州）と第7090地区からの支援を受け、今日までの15年間に219の井戸と350のトイレの設置に携わってきました。安全な水の必要性と、井戸の重要性を認識するシェルドリックさんは、設置される井戸が「命を救うもの」と話します。

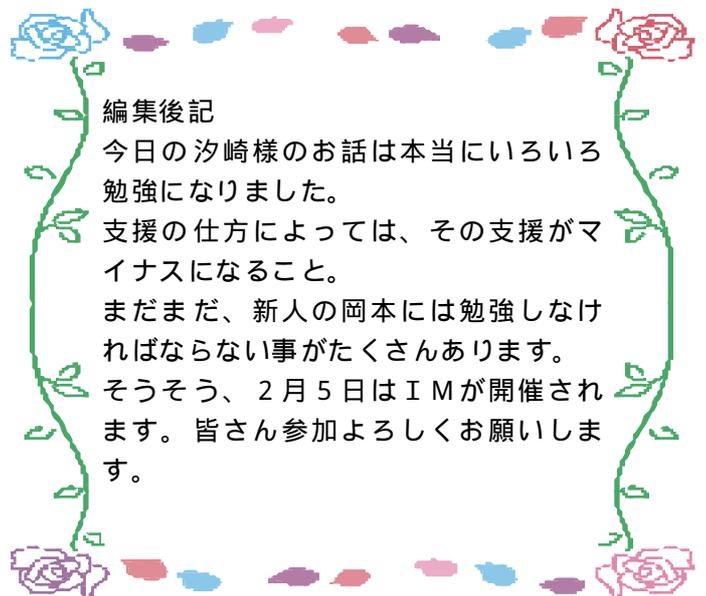
これらの井戸は、地域の学校や、大地震発生に端を発するコレラの蔓延に対応していた病院にも設置されました。「病院では、大地震の心的後遺症に苦しむ人々に加え、多くのコレラ患者の対応に追われていました」とシェルドリックさんは振り返ります。

人道的補助金

アンカスター・クラブとハイチの協同提唱者は1998年以来、このプロジェクトを継続するために、ロータリー財団から総額672,093ドルの人道的補助金を受けてきました。「人々に井戸の管理法を教えるなど、財団からの支援によって『Water For Life』は支援の領域を広げることができました」とシェルドリックさん。「配管工事の研修を提供するなどして、多くの働き口を創出しました。水事情を改善することで貧困は解消できるんです」

地域住民は井戸の利用に関する研修を受け、ハイチのロータリアンは井戸を定期的に管理調整するための委員会を設置しました。一基の井戸を設置するためには、5,000ドルの費用に加え、500人の労力が必要とされました。これらの井戸が設置されたことによって、地域住民の健康状態は大きく向上したと話すシェルドリックさんは、「きれいな水の確保は生死に関わる問題」と説明します。「一基の井戸で、村全体が潤います。不衛生な水を得るために何マイルも歩く必要もなくなり、家の近くできれいな水を得ることができるんです」

シェルドリックさんは、ハイチの人々のために、残りの人生すべてを井戸の設置に捧げていきたいと考えています。「設置された井戸を訪れ、きれいな水を利用する人々と会うたびに私は嬉しくなります。彼らの笑顔は幸せそのものです。ハイチの人々にきれいな水を提供することは、明日への希望をもたらすことなんです」



編集後記

今日の汐崎様のお話は本当にいろいろ勉強になりました。

支援の仕方によっては、その支援がマイナスになること。

まだまだ、新人の岡本には勉強しなければならぬ事がたくさんあります。

そうそう、2月5日はIMが開催されます。皆さん参加よろしくお祈りします。